

2022年度第4回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2022年12月21日（水）13:30～16:00

2. 場 所： ハイブリッド会議（対面：鉄連第2会議室＋Web：Teams）

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京大学）

副委員長：緒形（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川（日本水道協会）、沖（建築研究所）、小野（日本分析化学会）、
河口（不二越）、熊井（日本検査キューエイ）、栗原（日本伸銅協会）、
桑原（東京農工大学）、後藤（大同特殊鋼）、近藤（日産自動車）、酒井（神戸製鋼所）、
桜井（日本鋼構造協会）、堤（日本規格協会）、富永（三菱重工業）、
中澤（JFEスチール）、林（元理化学研究所）、藤井（日本試験機工業会）、
藤田（栄）（北海道大学）、藤田（慎）（日本金属継手協会）、
松本（和）（日本海事協会）、松本（聡）（日本製鉄）、
森山（日本アルミニウム協会）、山口（九州工業大学）

（委員長・副委員長・委員計26名）

欠 席：小野寺（日鉄SGワイヤ）、種物谷（高圧ガス保安協会）、富山（土木研究所）、
山田（東京大学）

幹 事：玉田（鉄鋼連盟）

関係者：伊藤（実）（経済産業省）、甲斐（国土交通省）（関係者計2名）

事務局：寺澤・楠野・井田・山本・越川・齋藤・阿部・石川（鉄鋼連盟）（事務局計8名）

4. 議題及び配布資料

1) 報告事項

資料1-1：2022年度第4回鋼材規格三者委員会名簿

資料1-2：2022年度第2・3回鋼材規格三者委員会議事録

2) JIS規格審議

<改正>

資料2：JIS G 0201 鉄鋼用語（熱処理）

資料3：JIS G 0203 鉄鋼用語（製品及び品質）

資料4：JIS G 3103 ボイラ及び圧力容器用炭素鋼及びモリブデン鋼鋼板

資料5：JIS G 3140 橋梁用高降伏点鋼板

資料6：JIS G 4051 機械構造用炭素鋼鋼材

資料7：JIS G 4052 焼入性を保証した機械構造用鋼材（H鋼）

資料8：JIS G 4053 機械構造用合金鋼鋼材

資料9：JIS Z 2242 金属材料のシャルピー衝撃試験方法

資料 10 : JIS G 1226 鉄及び鋼—すず定量方法

—よう化物抽出分離フェニルフルオロン吸光光度法

資料 11 : JIS G 1236 鉄及び鋼—タンタル定量方法

—ふっ化物・ビクトリアブルーB 抽出分離吸光光度法

資料 12 : JIS G 3442 水配管用亜鉛めっき鋼管

資料 13 : JIS G 4903 配管用継目無ニッケルクロム鉄合金管

資料 14 : JIS G 4904 熱交換器用継目無ニッケルクロム鉄合金管

資料 15 : JIS G 0801 圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法

資料 16 : JIS G 0901 建築用鋼板及び平鋼の超音波探傷試験による等級分類及び判定基準

<廃止>

資料 17 : JIS G 3469 ポリエチレン被覆鋼管

3) JIS 原案作成に係る事前調査表の審議

資料 18 : JIS G 1228-3鉄及び鋼—窒素定量方法

—第 3 部：不活性ガス融解—熱伝導度法（追補改正）

資料 19 : JIS Z 2241 金属材料引張試験方法（追補改正）

4) 定期見直し案の審議

資料 20 : 2023 年度 JIS 定期見直し調査について

5. 議事内容及び結果

委員交代の紹介及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

5.1 幹事から、委員会名簿及び 2022 年度第 2 回及び第 3 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。これらの議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。

5.2 JIS 規格審議案件の改正 15 件及び廃止 1 件について、事務局から内容が説明され、以下の質疑応答があった。

1) JIS G 3140 に関して、“機械的性質”の用語の使用について確認された。事務局から、“幅広く用いられている用語であるが、使用実態を調査してみたい。”とコメントされた。

2) JIS Z 2242 に関して、計装的な衝撃試験方法を取り入れる計画について確認された。事務局から、具体的な提案が提出された時点で検討を行うことがコメントされた。

上記の他、改正 JIS 案は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、改正 15 件及び廃止 1 件は、いずれも承認された。

5.3 JIS 原案作成に係る事前調査表について、事務局から内容が説明され、以下の質疑応答があった。

1) JIS Z 2241 に関して、測定値の不確かさを考慮したものであるかと確認された。事務局から、不確かさについては、要求事項として規定しておらず、不確かさの見積もりを参考事項として記載していることが説明された。

2 件は、いずれも承認された。

5.4 2023 年度定期見直し調査について、事務局から内容が説明され、承認された。なお、パブコメで意見が出された場合、再度内容を審議することが確認された。

5.5 その他

幹事から、2023年度第1回鋼材規格三者委員会は、7月26日（水）午後に、ハイブリッド会議として開催することが説明された。なお、必要に応じて、臨時案件についての書面審議を行うことを確認した。

以上